



# 天照らす白鷺城

姫路城の雄姿に魅了される人は少なくありません。姫路から遠く離れた三重県にも、そういう方がひとりいらっしゃいました。

伊勢市にお住まいの井村さんが姫路城と出会ったのは子供の頃。雑誌の付録にあった姫路城の紙製模型が初めてだったそうです。実物を見たのではなく、雑誌の付録で姫路城に取り憑かれたというのですから、それが何かの運命だったのでしょうか。いまや自宅の庭に1/23の姫路城模型を作ってしまったのです。

井村さんが築城を開始して約15年。姫山と鷺山の曲輪造成がほぼ完了し、作事についてはようやく西の丸が完成しました。現在は乾曲輪にあった多聞櫓の作事に取り掛かっています。姫路には何度も足を運んで、城内ではこっそりあちこち実測されたそうです。そうした地道な作業の成果が実り、天守群までが仕上がるのは4年後くらいになるだろうとのこと。



建物の主な素材はFRP樹脂。瓦や壁などは型ができていて、それをもとに作事が行われている。姫路城の傍らに「作事場」も設置され、そこで作業が黙々と続けられている。左は瓦の型と、型に樹脂を流し込んでいる状況。



天守台の上から西の丸を臨む。本物の大天守からの眺めと一致する。当たり前だけど、少し感動する瞬間でもある。西の丸御殿は、「播州姫路城図」（中根忠之氏蔵）発見の新聞記事に掲載された写真等を参考に、二条城などの建物を参考に製作されたもの。



ただの模型と侮ってはいけない。これは天守台から搦手を見下ろしたところ。実物の姫路城に登っても、樹木や建物が邪魔になって、搦手の通路の曲り具合を上から眺めることはできない。この模型だからこそ見られる。CGよりも立体感があって模型の威力を発揮している箇所である。井村さんはここが一番難しかったと言われる。参考にする測量図が入手できないので、それは仕方ない。



三国堀南辺石垣上に腰掛ける井村さん（右）と取材中のアナウンサー。ご自分の居宅の敷地面積よりも、姫路城の方が大きいのだとか。三の丸まで作りたいのだけれど、そうすると自宅を壊さないと敷地に納まらないので、それは諦めているという。